

# 新専門医制度 麻酔科領域 2022 年度プログラム

社会医療法人 愛仁会



# 千船病院

---

1. 専門医制度の理念と専門医の使命	・・・・・・・・・・ P.1
2. 専門研修プログラムの概要と特徴	・・・・・・・・・・ P.1
3. 専門研修プログラムの運営方針	・・・・・・・・・・ P.2
4. 研修施設の指導體制	・・・・・・・・・・ P.3
5. 専攻医の採用方法と問い合わせ先	・・・・・・・・・・ P.8
6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度	・・・・ P.9
7. 専門研修方法	・・・・・・・・・・ P.10
8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス	・・・・・・・・・・ P.10
9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）	・・・・・・・・・・ P.10
10. 専門研修プログラムの修了要件	・・・・・・・・・・ P.11
11. 専攻医による専門研修指導医及び研修プログラムに対する評価	・・・・ P.11
12. 専門研修の休止・中止，研修プログラムの移動	・・・・・・・・・・ P.11
13. 地域医療への対応	・・・・・・・・・・ P.12
14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）	・・・・・・・・・・ P.12

---

# 千船病院麻酔科専門研修プログラム

## 1. 専門医制度の理念と専門医の使命

### ① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

### ② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

## 2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である社会医療法人愛仁会千船病院（以下、本院）、社会医療法人愛仁会明石医療センター、社会医療法人愛仁会高槻病院、医療法人社団英明会大西脳神経外科病院、大阪市立総合医療センター、奈良県立医科大学附属病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

本院では、一般麻酔に加え、豊富なハイリスク妊婦分娩や無痛分娩等の産科麻酔、ペインクリニック、緩和医療の研修。総合周産期母子医療センターを備える高槻病院では新生児を含む小児外科・小児脳神経外科症例の研修。明石医療センターでは、豊富な心臓血管外科症例（2017年度200件）の研修を通じて日本ならびに米国の周術期経食道心エコー資格認定取得も目指す。大西脳神経外科病院では意識下開頭術を含む脳神経外科症例全般に関する研修も行う。地域医療については、専門研修連携施設で行う。

### 3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、専門研修基幹施設で研修を行う。
- 高槻病院、明石医療センター、大阪市立総合医療センター、大西脳神経外科、奈良県立医科大学附属病院で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- 地域医療の維持のため、専門研修連携施設で研修を行う。
- 専門研修開始早期から、日本麻酔学会の学術集会をはじめとする学会への参加とともに発表および学術雑誌への投稿を行う。

#### 研修実施計画例

##### 年間ローテーション表の例

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	千船病院	明石医療センター， 大西脳神経外科病院	高槻病院 (集中治療)	千船病院， 大阪市立総合医療センター， 奈良県立医科大学附属病院
B	高槻病院	千船病院	明石医療センター， 大西脳神経外科病院	千船病院， 大阪市立総合医療センター， 奈良県立医科大学附属病院
C	千船病院	明石医療センター， 大西脳神経外科病院	高槻病院	千船病院， 三田市民病院
D	明石医療センター， 大西脳神経外科病院	千船病院	高槻病院， 大阪市立総合医療センター， 奈良県立医科大学附属病院	千船病院

#### 週間予定表

##### 千船病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
8:00	麻酔科・外科 合同勉強会						
8:30	カンファレン ス・症例検討 抄読会	カンファレン ス・症例検討	カンファレン ス・症例検討	カンファレン ス・症例検討	カンファレン ス・症例検討	休 み	休 み
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室 外来		
午後	手術室 外来	手術室	手術室		手術室 外来		
当直			当直				

#### 4. 研修施設の指導體制

##### ① 専門研修基幹施設

◆社会医療法人愛仁会 千船病院（以下、千船病院）

研修プログラム統括責任者：（麻酔）水谷 光

専門医：河野 克彬（麻酔）

星野 和夫

魚川 礼子（麻酔, 産科麻酔）

角 千里（麻酔, 産科麻酔）

大山 泰幸（麻酔）

安藝 裕子

認定病院番号：770

特徴：地域周産期母子医療センター、MFICU（6床）、NICU（15床）、ICU（4床）等を備え、24時間母体搬送に対応しています。分娩件数は大阪随一です。ですので、一般麻酔に加え、ハイリスク妊婦を含めた帝王切開や無痛分娩等の産科麻酔を数多く行っています。また、減量・糖尿病外科が新設されて高度肥満症の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか、低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され、より低侵襲の手術も増加しています。2017年7月に阪神電車なんば線「福駅」前に新築移転しました。大阪市西淀川区にあります。

麻酔科管理症例数 2,796症例

	本プログラム分
麻酔科管理全症例数	3,906症例
小児（6歳未満）の麻酔	3症例
帝王切開術の麻酔	549症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	2 症例
脳神経外科手術の麻酔	4症例

##### ② 専門研修連携施設A

◆社会医療法人 明石医療センター

専門研修指導医：岡本健志（麻酔）

多田羅康章（麻酔、集中治療）

三宅隆一郎（麻酔、心臓血管麻酔）

藤島佳世子（麻酔）

松尾佳代子（麻酔）

納庄弘基（集中治療，心臓麻酔）

濱崎豊（麻酔）

米田優美（麻酔）

松岡基行（麻酔）

山崎翔太（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1166

特徴：硬膜外麻酔や神経ブロックなどを積極的に行い、局所麻酔の技術の習得を目指すとともに、豊富な心臓大血管外科症例を通して日本ならびに米国の周術期経食道心エコー資格認定取得も目指す。また、希望があれば集中治療の研修も可能。

◆社会医療法人愛仁会高槻病院

研修実施責任者：中島正順

専門研修指導医：中島正順（麻酔）

内藤嘉之（麻酔，心臓血管麻酔，集中治療）

西田隆也（麻酔）

土居ゆみ（小児麻酔，小児集中治療）

棚田和子（麻酔）

丸山祐子（麻酔）

認定病院番号：829

特徴：大阪北地域の基幹病院として小児から成人までの高度・先進医療を提供している。総合周産期母子医療センターを備えているため小児，産科手術麻酔が豊富である。また救急搬送も多く受け入れており緊急手術の麻酔症例も多く，心臓血管外科や脳神経外科等も含めた様々な手術の麻酔を研修することが可能である。

◆大阪市立総合医療センター

研修プログラム統括責任者：山田 徳洪

専門研修指導医：奥谷 龍（麻酔）

重本 達弘（集中治療）

西田 朋代（集中治療）

豊山 広勝（麻酔）

中田 一夫（麻酔）

山田 徳洪（麻酔）

池田 慈子（麻酔）

嵐 大輔（麻酔）

上田 真美（麻酔）

岡本 なおみ（麻酔）

認定病院番号：686

特徴：当センターでは以下のような特殊症例の他に、一般的な症例の手術麻酔も豊富です

- ・心臓麻酔：成人心臓外科ではMICSやTAVI、小児心臓外科では複雑心奇形
- ・小児麻酔：未熟児、緊急手術を含む新生児
- ・産科麻酔：麻酔分娩（無痛分娩）や死戦期帝王切開
- ・外傷麻酔：出血性ショックなど最重症症例、超緊急症例
- ・ICU研修：集中治療専門医によるClosed ICU管理

公立病院、民間病院、大学病院と連携し、学閥なく高水準な臨床麻酔を志します

◆奈良県立医科大学附属病院

研修実施責任者：川口 昌彦

日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：

川口 昌彦  
井上 聡己（集中治療）  
渡邊 恵介（ペインクリニック）  
恵川 淳二  
岩田 正人  
田中 暢洋  
西和田 忠  
阿部 龍一  
藤原 亜紀  
園部 奨太

専門医：  
林 浩伸  
内藤 祐介  
位田 みつる  
紀之本 茜  
木本 勝大  
甲谷 太一  
植村 景子  
赤崎 由佳  
吉村 季恵  
紺田 眞規子  
小川 裕貴  
奥田 千愛  
大井 彩子

麻酔科認定病院番号：51

**施設の特徴**

教室のモットーは、“個性重視”、“時代にあった新たな挑戦”そして“良好なチームワーク”です。仲良く、心地よく、喜びや充実感を得られればと考えています。手術麻酔だけでなく、集中治療、ペインクリニック、緩和医療をバランスよく研修することができます。手術麻酔では、心臓血管外科麻酔、小児麻酔、産科麻酔、脳外科麻酔、胸部外科麻酔科に加え、大学病院として先端的な医療や重症例を経験できます。小児心臓外科麻酔、新生児手術、無痛分娩も経験できます。周術期管理医としての幅広い知識も身に付けていただけます。麻酔専門医だけでなく、集中治療、ペインクリニック、心臓血管麻酔、緩和ケアなどのサブスペシャリティの専門医の取得、研究のサポートさせていただきます。

◆大阪医科薬科大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：日下裕介

専門研修指導医：南 敏明（麻酔，ペインクリニック）

日下 裕介（心臓血管麻酔，集中治療）

梅垣 修（集中治療）

宮崎 信一郎（心臓血管麻酔，ペインクリニック）

中平 淳子（心臓血管麻酔）

間嶋 望（小児麻酔）

門野 紀子（集中治療）

下山 雄一郎（集中治療）

今川 憲太郎（集中治療）

駒澤 伸泰（気道管理，緩和医療）

中野 祥子（小児麻酔）

出口志保（集中治療）

専門医：中尾 謙太（ペインクリニック）

石尾 純一（ペインクリニック）

長峯 達成（心臓血管麻酔）

佐野 博昭（ペインクリニック）

北埜 学（小児麻酔，集中治療）

上野健史（小児麻酔）

山崎智己（心臓麻酔）

麻酔科認定病院番号：19

特徴：2016年4月1日より、新中央手術棟（手術室20室、集中治療室16床）が新設され、麻酔科医局も1.5倍の広さになりました。当院では、2020年度、全手術件数11,692件、麻酔科管理症例6,691件の実績があり、豊富な麻酔症例を経験でき専門医必要症例を全てバランスよく研修することが可能であり、集中治療・ペインクリニックの研修も可能である。また、種々のセミナー（麻酔科学関連だけではなく、学会発表のため

のPower Pointの使い方、統計など) の開催、専門医試験対策、学会発表・論文作成の指導、将来の志望に応じた人事面でのサポートなどを行っています。ペインクリニック外来は、1966年、故兵頭正義教授が日本においては東京大学に次いで2番目に開設され、伝統があります。

### ③ 専門研修連携施設B

◆医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院 (以下、大西脳神経外科病院)

研修実施責任者：鈴木 夕希子

専門研修指導医：鈴木 夕希子 (麻酔)

岡田 幸作 (麻酔)

認定病院番号：1648

特徴：意識下開頭術を含む脳神経外科症例全般に関する研修を行う。

◆三田市民病院

研修実施責任者：笠置 益弘

専門研修指導医：笠置 益弘

専門医：諸岡 あかり

佐野 もえ

麻酔科認定病院番号：752

特徴：バランスのとれた総合病院であり、麻酔の基本を学ぶ症例が充実している。整形外科手術、ロボット支援泌尿器科手術や、腓頭十二指腸切除術等高侵襲手術も多い。神経ブロックを多くの症例で行っており、神経ブロックの症例を多く研修することが可能である。また、ペインクリニック外来を持ち、手術麻酔とともに研修可能である。

## 5. 専攻医の採用と問い合わせ先

### ① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに(2020年9月ごろを予定)志望の研修プログラムに応募する。

### ② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、千船病院麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

千船病院 麻酔科部長 水谷 光 (又は、診療部支援室 てんどう 田堂)

〒555-0034 大阪市西淀川区福町3丁目2番29号 TEL 06-6471-9541

E-mail : [sennofune@chp.aijinkai.or.jp](mailto:sennofune@chp.aijinkai.or.jp)

Website : [www.chibune.aijinkai.or.jp](http://www.chibune.aijinkai.or.jp)

## 6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

### ① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

### ② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

### ③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

## 7. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

## 8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

#### 【専門研修 1 年目】

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

#### 【専門研修 2 年目】

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

#### 【専門研修 3 年目】

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

#### 【専門研修 4 年目】

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

### 9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

#### ① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

#### ② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

## **10. 専門研修プログラムの修了要件**

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

## **11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価**

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

## **12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動**

### **① 専門研修の休止**

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

### **② 専門研修の中断**

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専

門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。

- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

### ③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

## 13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての明石医療センター、高槻病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

## 14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で到達・指導する。